

学校生活の中での地図活用

茨城県小学校教諭

1. はじめに

私のクラスには、地球儀が常時置いてあり、また子どもたちの机の中には、いつも地図帳が入っている。みんな地図が大好きである。

今年度私は6学年を担当している。今回は社会科以外の学校生活での地図活用について少々述べてみたい。また話を具体的にするためにこの1学期に実践したことを中心に述べていきたい。

2. 社会科以外での活用

朝の会のプログラムの中に「今日のニュース」がある。「今日のニュース」はその日の日直がニュースの切り抜きを持参し、そのニュースの概略と自分の考えを発表するという1分間のスピーチである。教師が補足説明する際、地図帳を机の上に出し、赤ペンでチェックをする。なかには指示される前から地図帳を開く子どももいる。

国語「イースター島にはなぜ森林がないのか」(説明文)の単元では、導入にあたり、本文を読む前にイースター島を探すところからはじまった。また本文に出てくる「チリ」「ポリネシア」などの地名も地図帳で確認、赤でチェックをいれる。

算数「単位量あたりの大きさ」では人口密度を学習した。教科書で基本をおさえたあとは、地図帳の統計の表から、都道府県や世界の国々の人口密度を計算する。計算で求めるための人口密度ではなく、統計を読み、生活に生かす学習にしていきたい。

音楽の鑑賞では、「世界の音楽を聴こう」の単元、図工では「世界の国からこんにちへ」という造形の鑑賞教材を実践した。ここでも地図帳の出番である。壁掛けの大きな世界地図を提示し、また子どもたちは自分の地図帳で場所の確認をする。気候、民族、宗教などを地図で読み取った後、音楽を聴いたり、作品を鑑賞したりした。

3. 教室環境

教室環境の一つのコーナーとして「おでかけパン

フレットコーナー」がある。土・日または長期休み、旅行にでかけたときなどは、パンフレットや地図を集めるよう呼びかけてきた。観光ガイドなどのパンフレットや地図は、子どもたちが意識するだけでたくさん集まるものである。集めてきたパンフレットなどを掲示し、その場所を地図上に色ペンでチェックするようにした。毎年5月の連休を機会に意欲づけをはかっておくと、年度末までには多くの地域に書き込まれ、地図もカラフルになる。

また、学級文庫の中には、中学校の地図帳、高校の地図帳なども数冊置いてある。中学以上の地図帳は、小学校の地図帳と縮尺も違い、子どもたちにとっては興味のあるページがたくさんある。また、ロッカーの上には地球儀が置いてあり、いつでも自由に見ることができるようになっている。



4. おわりに

毎年4月、帝国書院地図・地理普及特別班の方に教室にきていただき出前授業をお願いしている。子どもたちは地図に興味をもち、地図帳だけでなく身近に見かけたさまざまな地図にも高い関心をもつようになった。

地図帳といえば地名探しが一番の活用目的となるが、地名を見つけることは国語辞典と同様「慣れ」である。児童は慣れてくると速いスピードで地名を見つけることができる。また地名探しだけに終わらず、地図記号、方位、縮尺、など多面的に地図を読み取ることができるようになってきた。

知らない地名に出会ったとき「さがしてみよう」という意欲をもたせることが、何よりも大切である。日常的な地図活用とは「地図を見る習慣」を身につけることだと考える。